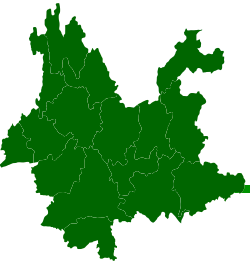




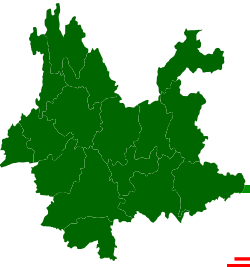
中国西南民族史

2. 秦漢～魏晉南朝： 西南夷の「発見」と南中社会の成立①



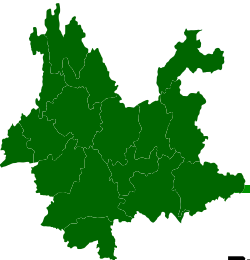
『史記』西南夷列伝

- 『史記』
 - 中国の正史(二十四史／二十五史)の第一
 - 前漢武帝期の人・司馬遷の作



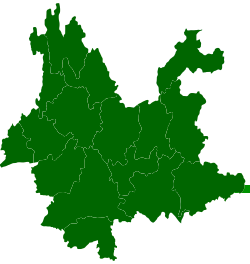
中国の正史

書名	卷数	撰者(編者)	成書年
史記	130卷	[前漢]司馬遷	前93
(前)漢書	100卷	[後漢]班固	83
後漢書	120卷	[宋]范曄	445
三国志	65卷	[晋]陳寿	289
晋書	130卷	[唐]房玄齡等	646
宋書	100卷	[梁]沈約	488
南齊書	56卷	[梁]蕭子顯	514
梁書	56卷	[唐]姚思廉	635
陳書	36卷	[唐]姚思廉	636
魏書	114卷	[北齊]魏收	554
北齊書	50卷	[唐]李百藥等	636
周書	50卷	[唐]令狐德等	636



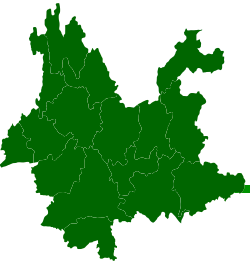
中国の正史(つづき)

隋書	85卷	[唐]魏徵等	636
南史	100卷	[唐]李延寿	659
北史	100卷	[唐]李延寿	659
旧唐書	200卷	[後晋]劉昫等	945
新唐書	225卷	[北宋]欧陽脩、宋祁等	1061
旧五代史	150卷	[北宋]薛居正等	974
新五代史	75卷	[北宋]欧陽脩	1072
宋史	496卷	[元]脱脱等	1345
遼史	116卷	[元]脱脱等	1344
金史	135卷	[元]脱脱等	1344
元史	210卷	[明]宋濂等	1370
新元史	257卷	[民国]柯劭忞等	1920
明史	332卷	[清]張廷玉等	1739



司馬遷

- 前145 生まれ
 - 前140 父司馬談に従って都長安に上る
 - 前126 南方各地を遊歴 (史料2.1)
 - 前124 旅行より帰り, 郎中となる
 - 前111 郎中として西南夷の鎮撫に赴く
巴蜀(今の四川)から南行し, 邛・笮・昆明を訪れる
- 『史記』の「西南夷列伝」 (史料2.2)
＝西南民族に関するはじめての詳細な記載



『史記』による西南民族の概要

- 夜郎：貴州西部・雲南東部に居住
- 滇(てん)：雲南中部・滇池地区中心
- 邛都(きょうと)：四川南部(東南部)
→ 「此皆魍結, 耕田, 有邑聚」 農耕民の集落
- 嵩・昆明：雲南西部
→ 「編髮, 隨畜遷徙, 母長処, 母君長」 牧畜民?
- 徙・笮都・毋駘・白馬：四川南部・西南部
→ 「皆氏類也」 氏(てい)=チベット系民族

徙・笮都

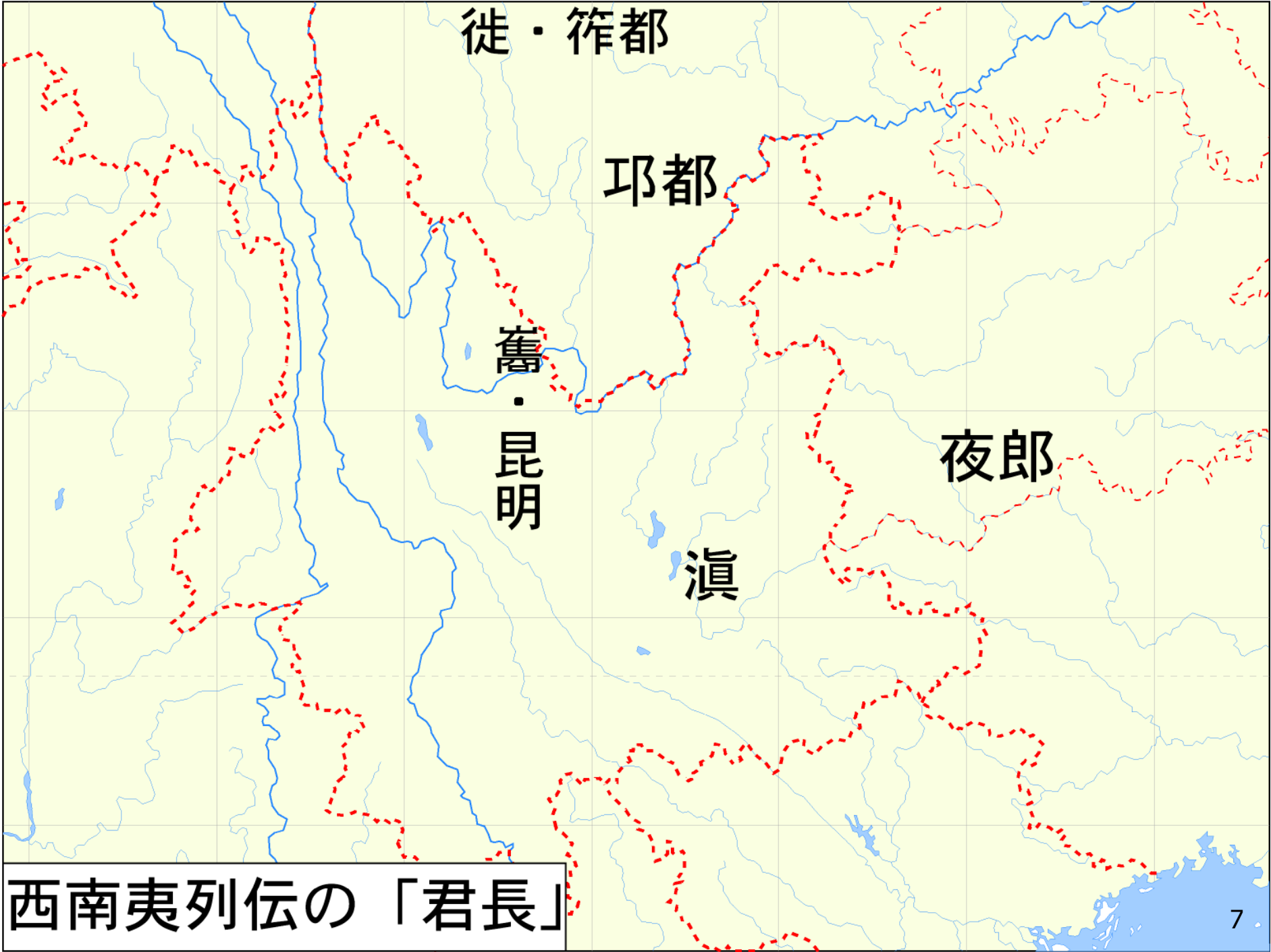
邛都

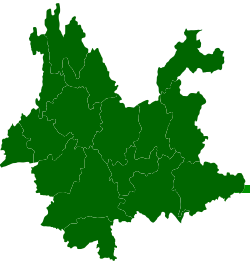
舊・昆明

滇

夜郎

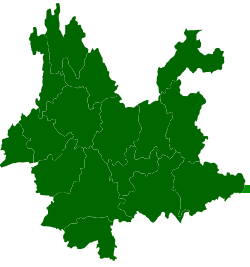
西南夷列伝の「君長」





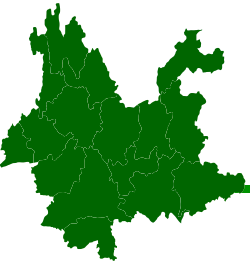
滇王莊蹻(そうきょう)伝説

- 「楚の威王の時, 将軍莊蹻が滇に遠征し, これを平定したが, 秦が巴・黔中を攻略して帰路が断たれたため, その地にとどまって滇王となった」
- 時期: 威王 (BC339-328) でなく頃襄王 (298-263) の時 (方国瑜説)
- 「莊蹻の遠征」そのものを否定する見解も多い
 - 『通典』以降の史書はすでに疑う (諸史料間の矛盾)
 - 考古学者: 滇文化に楚文化の影響なし



前漢武帝の西南経略

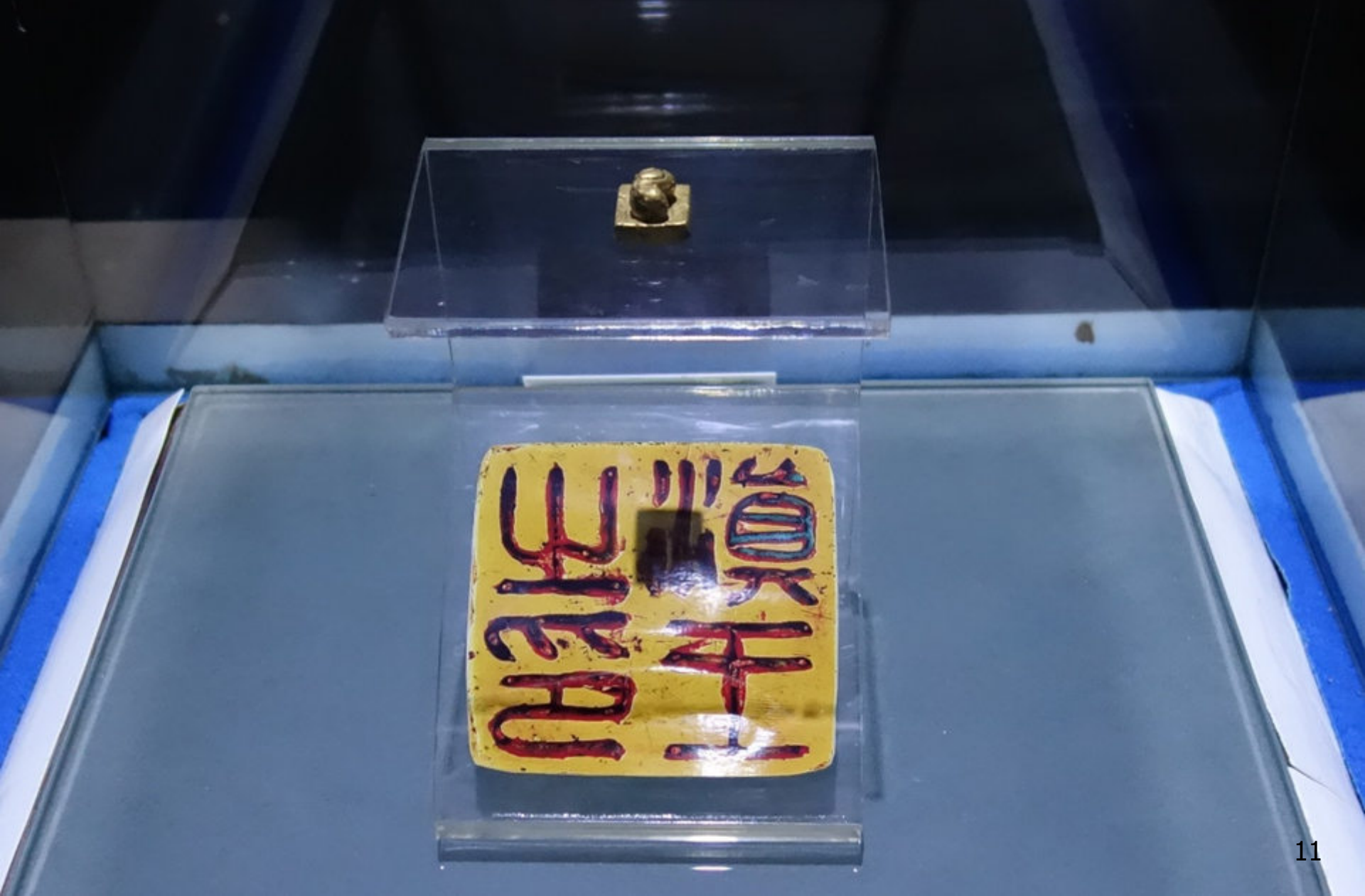
- 張騫, 大夏 (バクトリア) で蜀布・邛竹杖を見る
「身毒 (インド) 経由で蜀の商人から買った」
→ インド経由で西アジアに通じる道を求める
(当時シルクロードは匈奴に阻まれ不通)
- 漢の使者は滇にいたり, 滇王が西に使者を出す
→ 昆明に阻まれ到達できなかった
- 南越 (今の広州) 攻略の別働隊として
夜郎から牂牁江を降るルートを開拓
たびたび現地民族の反抗にあい難航



「滇王之印」

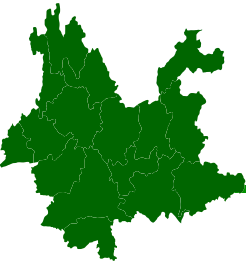
- 滇：終始漢王朝に協力的であったため、漢から王に封建され、**金印**を賜る
- 1955～ 晋寧石寨山古墓群の発掘
「滇王金印」の出土
滇国の中心が滇池地区にあったことを実証

「滇王之印」の複製品（昆明市博物館）



「滇王之印」の複製品（昆明市博物館）

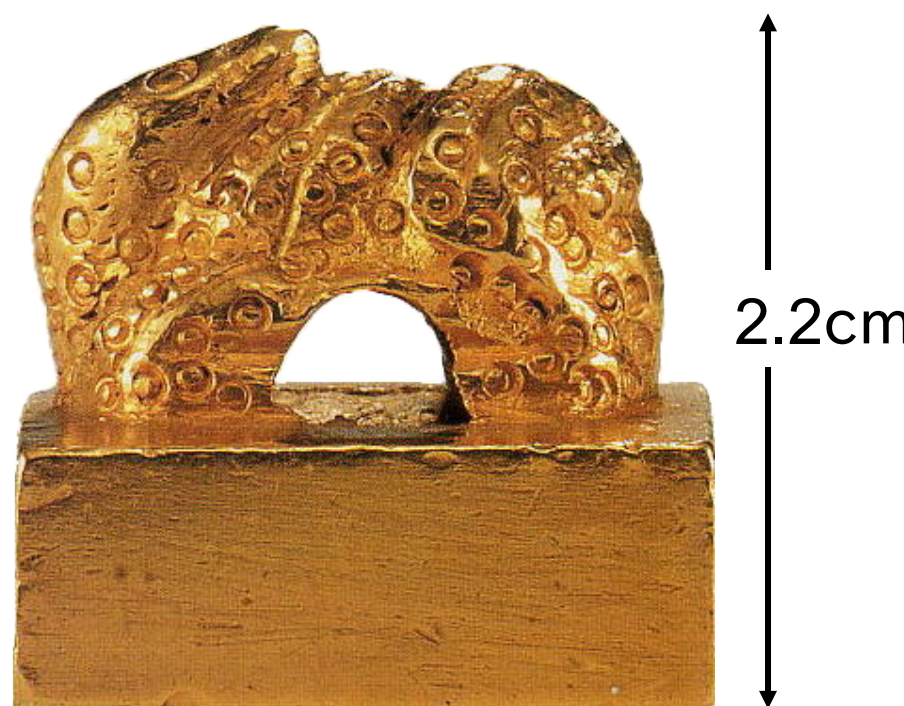




参考1:

志賀島出土の「漢委奴国王」印

2.3cm

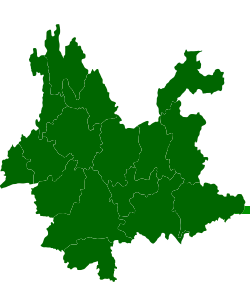


- 「漢王ノ印」と同じく蛇紐方寸の金印

(左)http://commons.wikimedia.org/wiki/File:King_of_Na_gold_seal_face.png

(右)http://commons.wikimedia.org/wiki/File:King_of_Na_gold_seal_knob_side.png

141122確認 (public domain in the United States)



印影の比較



石寨山（南側から）

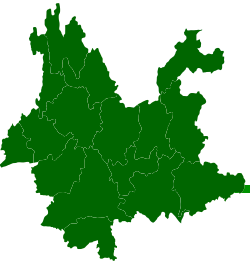


石寨山遺跡の入口(2004年8月)

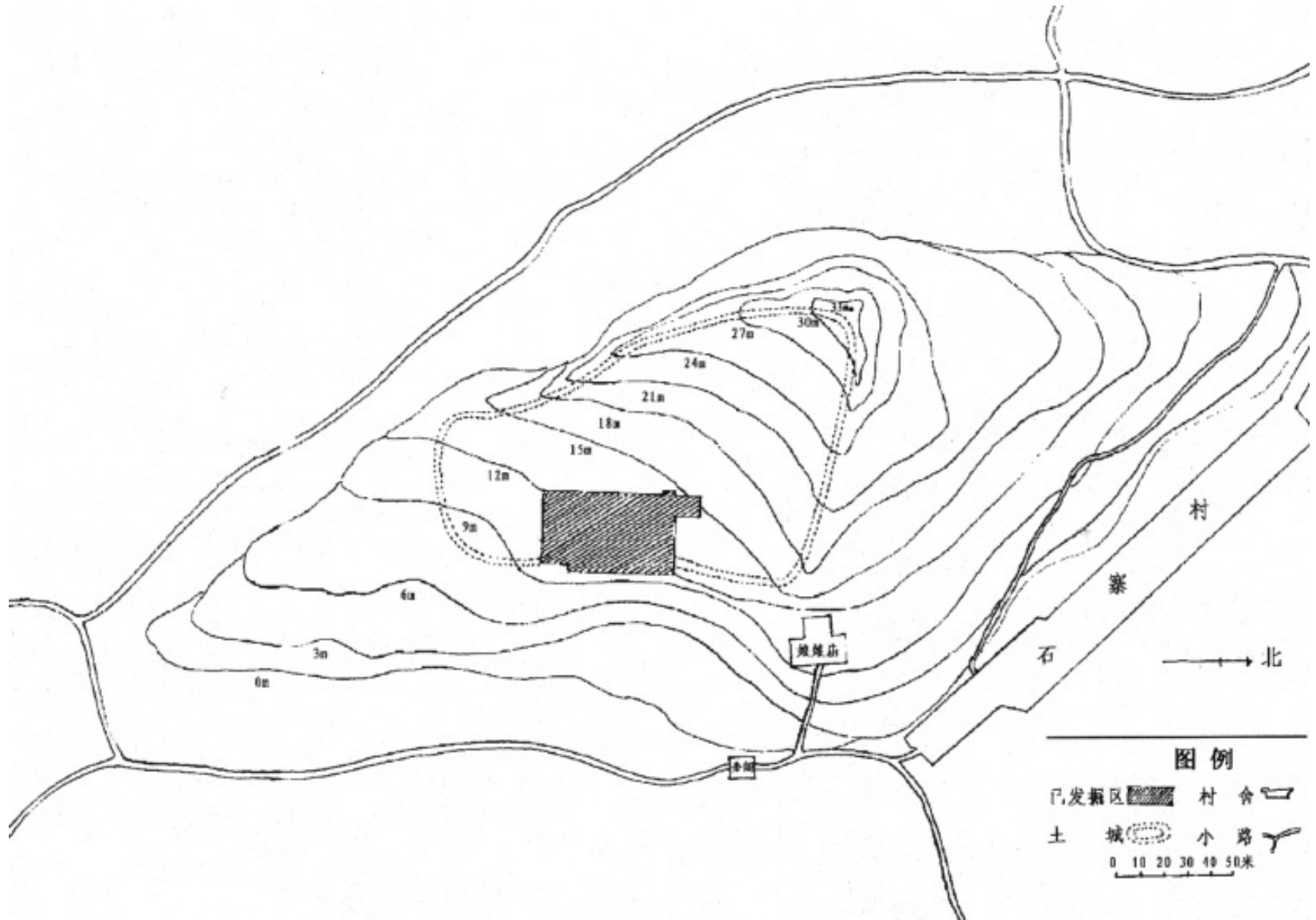


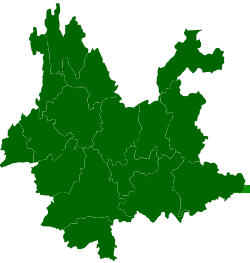
特に整備はされていない





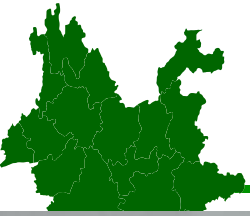
石寨山の地形(右が北)





石寨山の出土遺物

- 「滇王之印」(金印)(M6)
- 大量の青銅器
 - 銅鼓(滇式銅鼓・南方銅鼓)
 - 貯貝器(銅鼓等を再利用して子安貝を貯蔵)
- 金銀器・鉄器・玉器・瑪瑙等

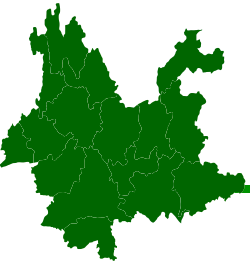


銅鼓 (石寨山式銅鼓)



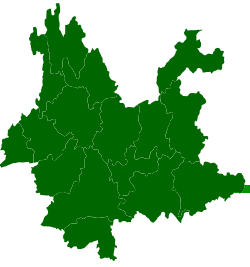
銅鼓型貯貝器





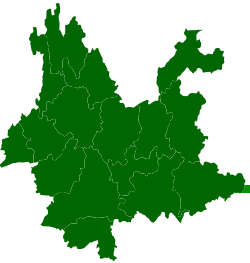
石寨山遺跡(墓群)の立地

- 滇池に面した小高い丘の裏
(東南側の日当りのよい斜面)
- その西の耕地は堤防に守られているが
0メートル地帯 (本来雨季には冠水)
→「天然の水田耕作」?
- 雲南地方=かつては稲作の起源地とされていた
→早期に稲作の発展



石寨山遺跡を作ったのは誰か？

- 「滇人」の実態？
 - 石寨山遺跡には文字の書かれたものが（金印以外）存在しない
 - 確定は困難だが
考古遺物と文献の両面からさまざまな学説
（古代民族の分類にどう位置づけるか？）



考古史料から見た「滇人」

①北方説

- 金銀器の豊富さ
- 動物(猛獣)紋(スキト・シベリア文化の特徴)

②百越説

- 銅鼓等の文様(船・羽人紋)→南越との共通性
- 高床=タイ系民族の住居

金器① 獸型金飾



金器②銅柄鐵劍及壓花牛頭紋金劍鞘



銅柄鐵劍及壓花牛頭紋金劍鞘
Iron sword with bronze handle and gold scabbards
西汉（公元前206-公元8年）
West Han Dynasty (206BC-8AD)
晋宁石寨山
shi zhai shan jinning County

動物紋①



動物紋②



房屋模型①

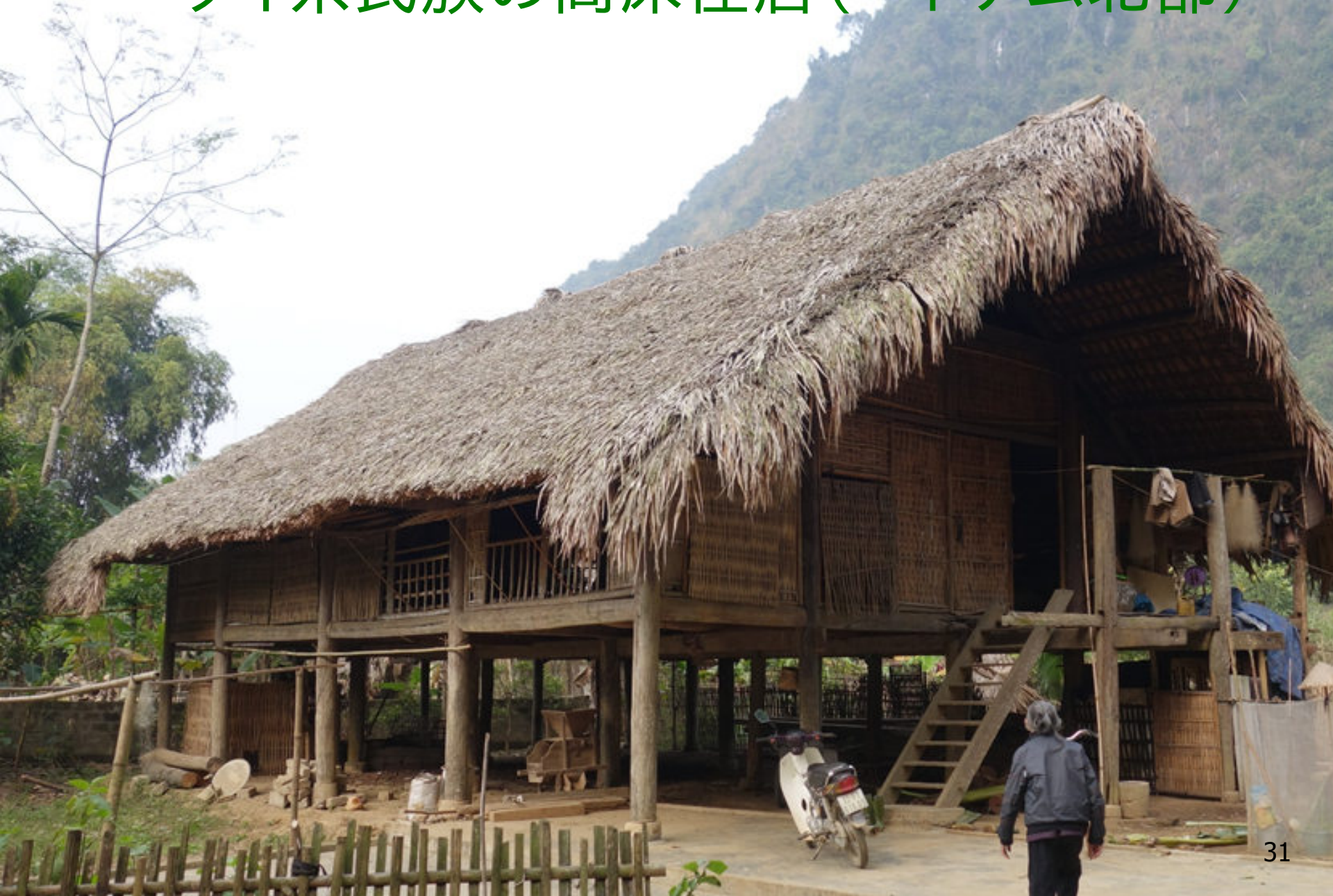


房屋模型②



line carving, and the use of composite materials.
The unique artistic style of Dian bronze ware establishes it as achievement in the art h
ook bronze wares only as ceremonial vessel in the Dynasties of Xia, Shang and Zh
understanding to the nature, human beings and relationship between man and nature
can be regarded as the emergence of the Dian society. The bronze was the mate
The Dian bronze ware depicted a scene that described the most vivid moment thro
the nature by taking real elements
ch was the most splendid achievement
aments. In addition to the bronze orna
nd agate.
that the Dian people mastered the golden

タイ系民族の高床住居（ベトナム北部）

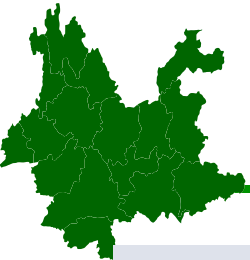


銅鼓の紋様



銅鼓の紋様(拓本)

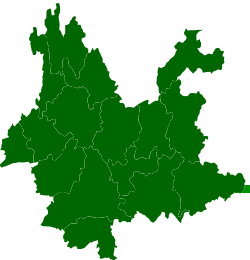




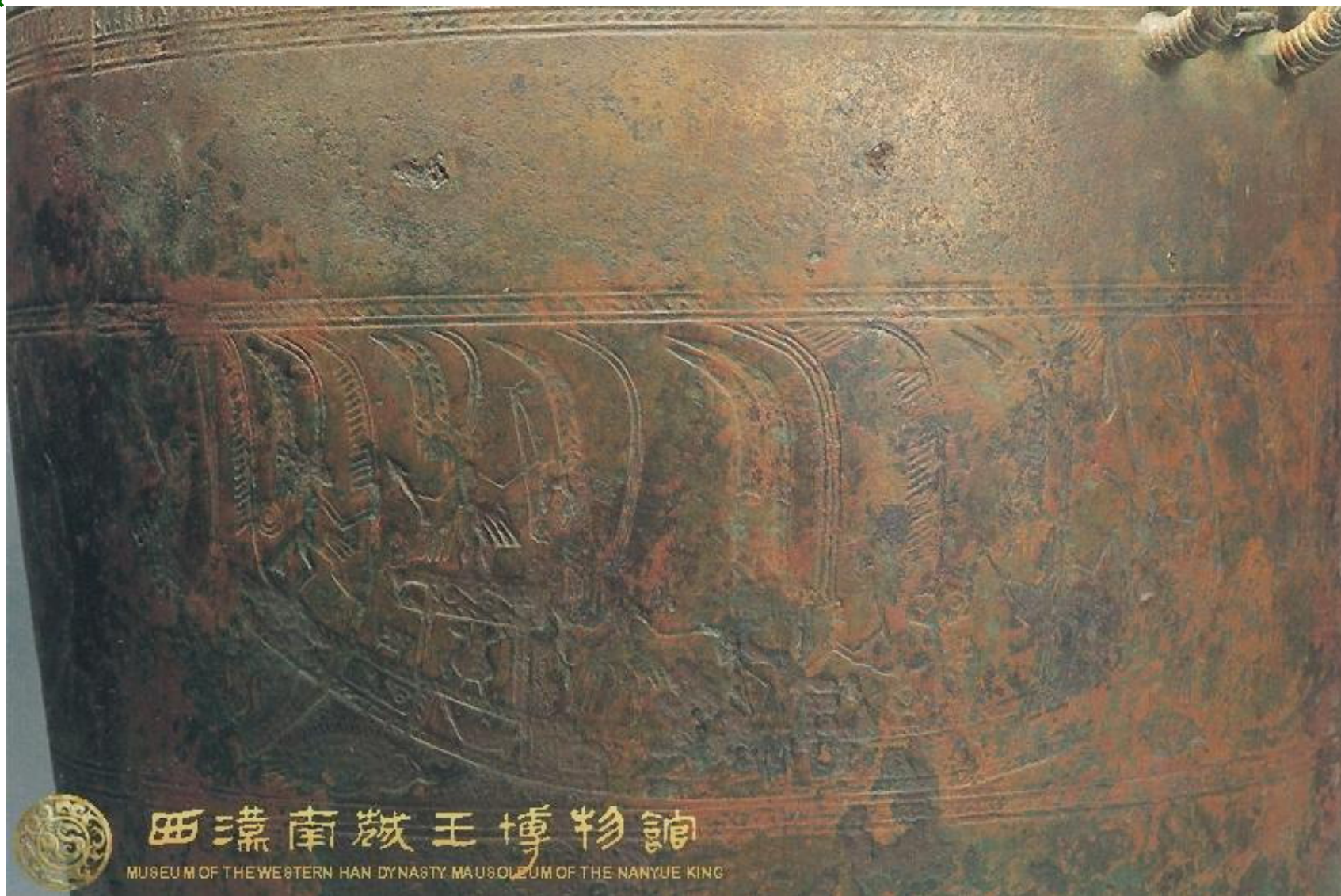
広州南越王墓出土の「船紋銅提筒」



西漢南越王博物館
MUSEUM OF THE WESTERN HAN DYNASTY MAUSOLEUM OF THE NANYUE KING



広州南越王墓出土の「船紋銅提筒」



「船紋銅提筒」と銅鼓の紋様の比較

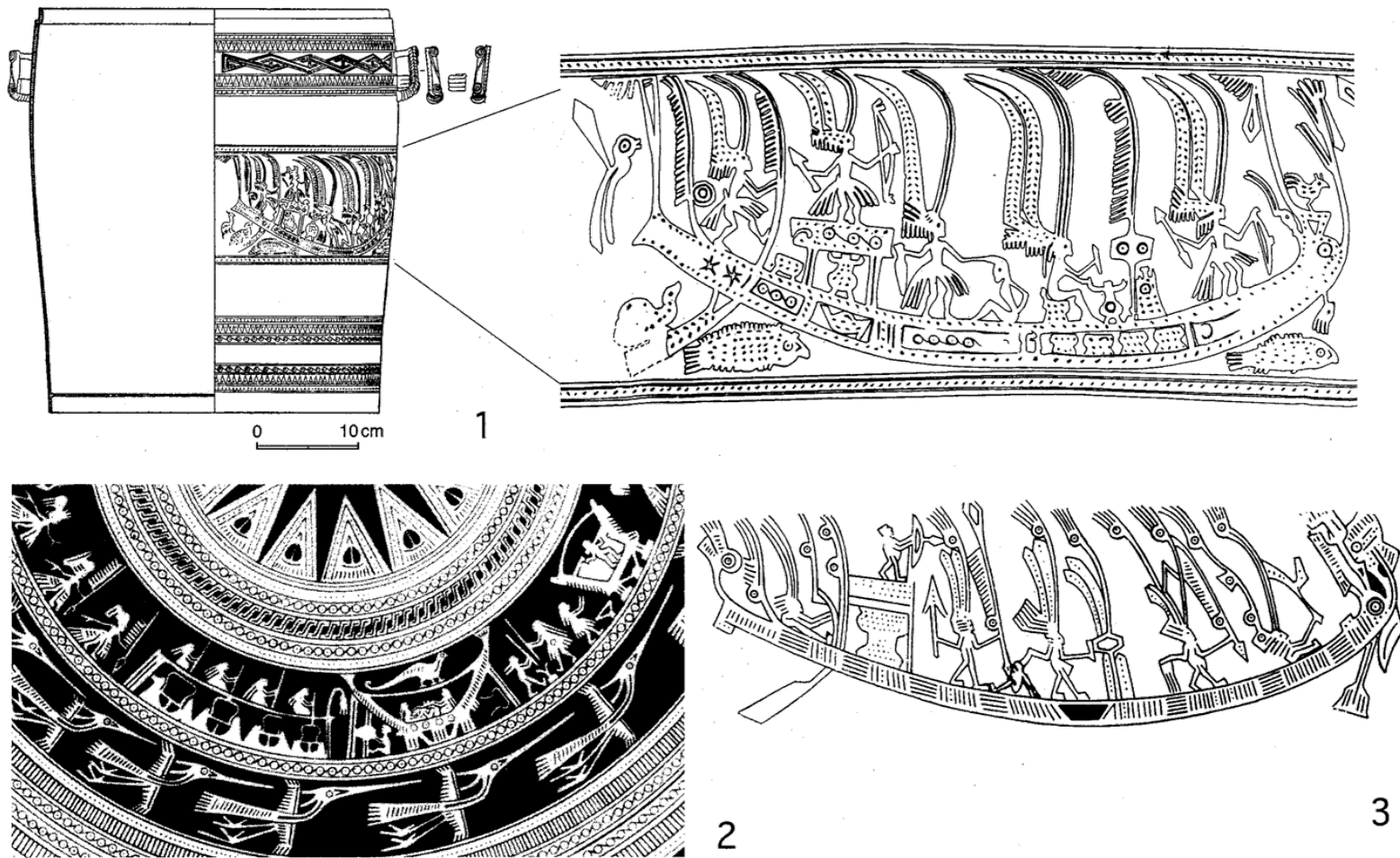
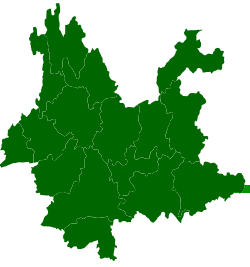


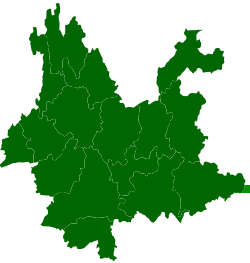
図4 1：広州南越王墓出土バケツ型青銅器 2：Cổ Loa I鼓の鼓面文様
3：Ngọc Lũ I鼓の頭部文様



考古史料から見た「滇人」

- 現在の中国考古学では「百越説」が通説になりつつある

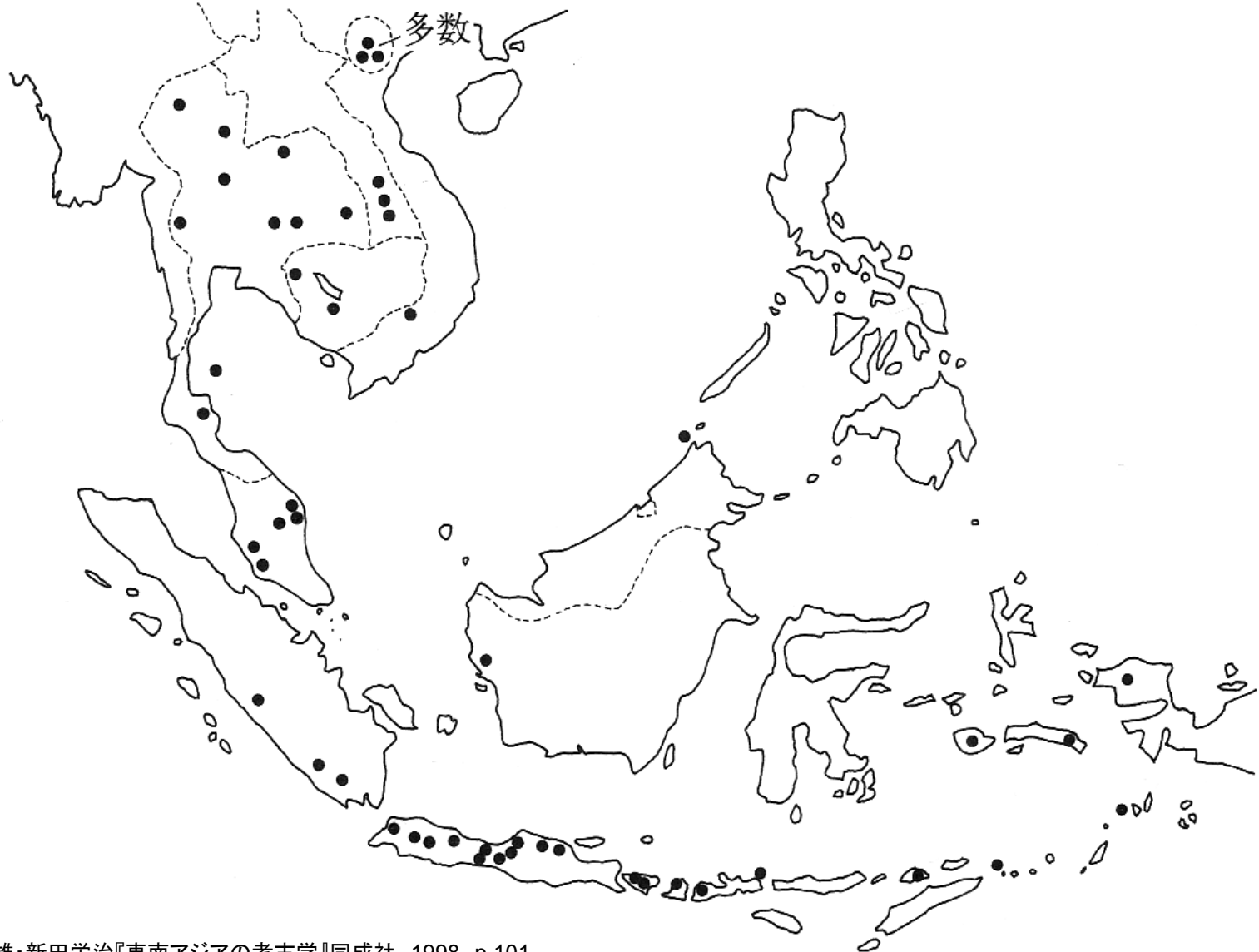
※ただし滇文化遺物(銅鼓・貯貝器)の図像上の人物表現には多数の「人種」「民族」を含む



考古学上の「滇文化」

- 他に江川李家山遺跡などが知られる
雲南中部～東南部一帯に分布
 - 滇文化の特徴である「石寨山式銅鼓」
北ヴェトナムのドンソン文化との共通性
(銅鼓の分布は東インドネシアにまで広がる)
- 銅鼓の起源問題(中国南方説／東南アジア説)

東南アジアにおける銅鼓の分布



バリ島Penataran Sasih寺院の銅鼓



バリ島Penataran Sasih寺院の銅鼓

